



喜多の埜

師走の師

十二月の別名は師走で、これは普段は走らない法師（僧侶）ですら各家庭でお経をあげるため馳せ走るので「師馳月」と呼ばれこれが師走の語源となったという説があります。

しかし筆者が個人的に思うことですが、お正月前に僧侶の方がお経をあげに行くという話を私はあまり聞いた覚えがありません。除夜の鐘など大晦日はお忙しい事と思うのですが、**十二月中走り廻る**という師の姿と僧侶の方々が**合致しない事**が私は不思議でした。

そんな折、**伊勢の神宮の歴史**を研究する知人が先日訪ねて来て放談していた時、近世まで伊勢の神宮の神官であり、全国に行脚して地方から神宮への参詣を世話した**御師（おんし）**という人々について話となり、師走の師とは**実はこの御師の「師」**なのではという推論で盛り上がりました。御師という職は今もっておりませんが、かつては正月前になると伊勢から各地へ**新年の御神札**を崇敬者に配る為、全国を走り回っていたようです。これなら師走と合致します。今後、**師走の語源**の一つとして考えてみると面白いかもしれません。

初詣のご案内

当神社では例年通り御本社、御旅社ともに**一月一日は午前零時〜午後五時頃まで開門**いたします。また、新年のお守り、御札などの授与も**午前零時から開始**致します。

今年一年間のご奉告と、来年一年間の無病息災を併せて初詣にどうぞお参り下さい。

十二月の二十四節季

日本には春夏秋冬の四季がありますが、この四季を太陽の運行に基き、現在の暦とも合わせて更に細分化したものが二十四節季で、**一ヶ月を二季に分けて**います。

この十一月には**大雪（たいせつ）**と、**冬至（とうじ）**という名の二季があります。

大雪とは**十二月七日頃**から**冬至**までの時期で、読んで字の如く雪が降り積もる時期とされますが、近年は温暖化のせいが大阪市内では雪が降る事すら稀となつてしまいました。この時期は多くの動物が活発に活動をしなくなり、熊などが冬眠する時期とされます。

冬至は**十二月二十二日頃**から一月の小寒までの時期で、ご存知の方も多いとは思いますが、一年で最も日照時間の短い日にあたります。北極では極夜となり一日中夜となり、南極では白夜となり一日中昼間となります。

日本では古来よりこの時期には柚子湯に入り、柑橘類の持つ殺菌作用と血行促進効果で体を温め、南瓜など栄養のあるものを食し、滋養をつけるべき日とされます。余談ながら、古代においてはこの冬至の日が正月一日であり、現代でも暦の基準日はこの冬至とされます。

この十二月は一年で最も冬らしさを感じる季節といえそうです。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜（神主）

白江 秀知

